

2 0 2 6 年度
事 業 計 画 書
収 支 予 算 書

自 2 0 2 6 年 4 月 1 日

至 2 0 2 7 年 3 月 3 1 日

2026年度事業計画

I. 情報発信事業及び事務局基盤整備事業等

1. 事業目的

本法人の設立趣旨に基づき、2016年からの活動成果を体系的に記録・発信することで、多様な価値観や生き方があることを伝え、人々の固定観念を変える契機とする。また、最新の管理システム運用を通じて組織ガバナンスを強化し、事業の安定的かつ持続的な遂行を支える基盤を構築する。

2. 事業目標

(1) 活動成果の記録と発信

財団の歩みを総括する書籍および事業報告書を作成し、広く社会へ成果を還元する。

(2) ガバナンスと効率化の推進

導入済みの勤怠・経費精算・稟議・会計システムを習熟・活用し、会計業務の効率化とチェック機能を一層強化する。

3. 事業内容

(1) 情報発信事業

A) 書籍：「DIVERSITY IN THE ARTS によってなにが変わったか（仮称）」の作成

a. 時期： 2026年4月～2027年3月

b. 内容： 団体立ち上げ以前の日本財団による事業を含め、これまでの活動目的や内容をまとめた書籍を、紙またはデジタル媒体で出版する。

B) 事業報告書：「DA TODAY10年間の軌跡（仮称）」の作成

a. 時期： 2026年4月～2027年3月

b. 内容： 2016年からのビジュアルアーツ、パフォーミングアーツ、情報発信事業の成果・効果および今後の社会課題を総括し、紙またはデジタル媒体で出版する。

(2) 事務局基盤整備事業等

A) 導入済みの勤怠・経費精算・稟議・会計システムの習熟と活用を徹底し、事務および会計業務の効率化と省力化を強力に推進する。さらに、システム運用を通じた内部チェック機能と相互牽制を強化することで組織ガバナンスの向上を図り、対外的な信頼に足る透明な組織運営と、持続的な事業遂行を支える事務局基盤を確立する。

B) 日本財団マンガ・アニメミュージアム(仮称) 建設構想に係る準備事業(追加事業)

a. 事業目的

本事業は、多様な価値観や生き方を描き、人々の固定観念を変える契機となり得る我が国の「アニメ・マンガ文化」の社会的・芸術的価値を正当に評価し、その持続的な発展を図るものである。

散逸や劣化の危機に瀕している直筆原画やセル画、初期の制作資料等の貴重な資産や制作技術を体系的に保存・継承することは、文化的多様性を守り、それぞれの個性を祝い・支え合う社会のあり方を伝える重要な基盤となる。

これら資産を活用した展覧会の開催や、国内外のファン・研究者が集う国際的な文化交流拠点の構築を通じて、全ての人が共に生活できる共生社会の実現を加速させるとともに、我が国の文化外交の一翼を担うことを目的とする。

b. 事業目標

- ① 建設予定地を決定するとともに、規制等の確認対応を終え、2027 年度に建築に向けた設計に着手できるようにする。
- ② 本ミュージアムの目的を達成するために必須となるクリエイターへの発信並びに連携を進める。

c. 事業内容及びスケジュール

① 基礎調査及びコンセプトの作成

■基礎調査

ア 時 期： 2026 年 5 月～2027 年 2 月

イ 場 所： 東京都渋谷区、港区等

ウ 内 容： 1) 基礎調査

時期 2026 年 5 月～10 月

2) 内容

漫画に知見のあるアートプロデューサーを中心に、リサーチチームを形成し、日本各地の美術館・博物館の視察、漫画アニメ関連の民間企業へのヒアリングなどを通して本ミュージアムの方向性を決定する。

■コンセプト策定

ア 時 期： 2026 年 10 月～2027 年 2 月

イ 内 容： アートプロデューサー、クリエイティブディレクターを選定し、コンセプトを作成する。

② 建設予定地の確定・調査

ア 時 期： 2026 年 4 月 23 日～2027 年 2 月

イ 場 所： 東京都渋谷区

ウ 内 容： 建設予定地の確定、土地の規制及び周辺調査の実施

③ クリエイターへの発信

ア 時 期： 2027 年 1 月～3 月

イ 場 所： 東京都渋谷区

ウ 内 容： 本ミュージアム事業に国内外の多様なクリエイターへの参画を求める。特に建築家への発信を強め、後の建築コンペへの参加を促す。また出版業界へのアピールをすることで収蔵物の希少性の向上、展覧会の品質の向上を狙う。

・情報発信（サウス・バイ・サウスウエスト(SXSW) JP HOUSE への共同出展）

ア 時 期： 2027 年 3 月 12 日～18 日

イ 場 所： アメリカ テキサス州 オースティン

II. 多様性をテーマとした共創活動の推進事業(ダンスワークショップ・全国大会の開催)

1. 事業目的

舞台芸術公演等の開催を通じ、障害の有無を問わずそれぞれの個性を祝い、支えあう社会のあり方を探る。表現活動を通じた「まぜこぜ」の体験を提供することで、全ての人が共に生活できる社会の実現を加速させる。

2. 事業目標

True Colors DANCE 2026(仮称)事業

- ・ 国内5都市でのワークショップ開催による、ダンス関心層の裾野拡大
- ・ インクルーシブダンス全国大会の開催を通じた、多様な表現の可視化

3. 事業内容及びスケジュール

(1)障害の有無を問わないダンス関心層のすそ野を広げるワークショップ

- a. 時 期： 2026年4月～2026年10月
- b. 場 所： 東京、札幌、愛知、大阪、福岡の計5か所（各3回、計15回開催）
- c. 対象者： 障害のある人、および共に活動したい小学生以上の人（各回60名程度）
- d. 内 容： インストラクターの指導のもと、障害の有無を超えたチーム作りと協働でのダンス体験を行う。

(2)インクルーシブダンス全国大会

- a. 時 期： 2026年11月～2027年3月
- b. 予 選： 5都市（東京、札幌、愛知、大阪、福岡）での地方予選およびオンライン予選を実施地方予選（東京、札幌、愛知、大阪、福岡5都市、オンライン）全国大会 東京都渋谷区
- c. 本 選： 2027年1月30日～1月31日、LINE CUBE SHIBUYA（渋谷公会堂）にて決勝大会を開催
- d. 規 模： 参加ダンサー1,500人程度、本選観客1,000人を想定
- e. 内 容： 予選を突破した約14組の混合チームによるコンテスト。トークイベントやネットワーキングも併催する。

III. 多様性の人との協働を通じた教育普及推進事業

(まぜこぜアートスクール・多摩美術大学とのシンポジウム)

1. 事業目的

教育・学術機関との連携による調査・研究活動の一環として、次世代や専門職へ多様な価値観を提示する。アーティストとの協働を通じ、人々の固定観念を変え、共生社会について主体的に考える契機を創出する。

2. 事業目標

(1) 教育現場へのアーティスト派遣

小学校および特別支援学校等において出前授業を実施し、教育プログラムとしてのモデルを確立する。

(2) 「障害とデザイン」の研究発信

多摩美術大学との連携により、学術的視点から多様性とデザインの融合を提言する。

3. 事業内容及びスケジュール

(1) まぜこぜアートスクール実施

- a. 時 期： 2026 年 4 月～2027 年 3 月
- b. 場 所： 調布市・戸田市の小学校・特別支援学校など計 3 校
- c. 参加者： 生徒・教員合計 300 人程度（1 校 1 学年対象 約 100 名×3 校）、
- d. 内 容： 障害のあるアーティストによる講義とワークショップ。自治体と連携し、体系的な事業モデルの確立を目指す。

(2) 「障害とデザイン」シンポジウム開催

- a. 時 期： 2026 年 11 月
- b. 場 所： 多摩美術大学 上野毛キャンパス
- c. 参加者： アーティスト、大学教員、デザイナー、大学生、社会人等約 300 人
- d. 内 容： 連携プログラムの総括として、2 日間の公開シンポジウムを開催し、実践報告と議論を行う。

2026年度予算書（正味財産増減計算ベース）

2026年 4月 1日から2027年 3月31日まで

一般財団法人 日本財団DIVERSITY IN THE ARTS

科 目	予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常収益			
①事業収入	271,120,000	273,370,000	-2,250,000
受取助成金	0	0	0
指定正味財産からの振替額	271,120,000	273,370,000	-2,250,000
②雑収入	4,018	25	3,993
受取利息	4,018	25	3,993
雑収入	0	0	0
経常収益計	271,124,018	273,370,025	-2,246,007
2. 経常費用			
事業費	242,914,172	243,151,851	-237,679
臨時雇賃金（事）	2,800,000	1,145,600	1,654,400
臨時雇通勤費（事）	0	576,000	-576,000
業務委託費*	119,500,000	128,100,000	-8,600,000
諸謝金	3,100,000	17,495,000	-14,395,000
印刷製本費	6,190,000	7,400,000	-1,210,000
広報費（事）	26,260,000	14,500,000	11,760,000
会議費（事）	1,540,000	1,890,000	-350,000
会場使用料	8,200,000	10,960,000	-2,760,000
旅費交通費（事）	17,332,000	9,380,000	7,952,000
通信運搬費（事）	907,880	1,568,000	-660,120
事務消耗品費（事）	490,000	1,760,000	-1,270,000
資料購入費（事）	0	264,000	-264,000
修繕費	0	120,000	-120,000
賃借料（事）	11,339,000	2,400,000	8,939,000
保険料（事）	230,000	900,000	-670,000
諸会費（事）	0	0	0
手数料	290,000	228,000	62,000
支払手数料（事）	36,000	120,000	-84,000
雑費	1,407,120	1,088,400	318,720
給料手当	28,029,306	27,618,163	411,143
法定福利費	5,605,860	5,523,688	82,172
人材派遣費	1,680,000	0	1,680,000
事務消耗品費（事）	1,542,006	2,880,000	-1,337,994
地代家賃	6,435,000	7,235,000	-800,000
管理費	28,205,828	30,218,149	-2,012,321
役員報酬	0	0	0
給料手当	10,281,606	10,767,053	-485,447
法定福利費	2,056,320	2,153,432	-97,112
食費手当	1,536,000	864,000	672,000
通勤費	1,641,600	2,275,200	-633,600
福利厚生費	1,108,032	1,108,032	0
人材派遣費	0	0	0
印刷製本費	60,000	60,000	0
会議費	400,000	40,000	360,000
旅費交通費	552,000	936,000	-384,000
通信運搬費	2,356,008	1,920,000	436,008
事務消耗品費	514,002	960,000	-445,998
修繕費	240,000	360,000	-120,000
水道光熱費	432,000	480,000	-48,000
地代家賃	2,145,000	2,145,000	0
新聞図書費	240,000	240,000	0
保険料	0	40,000	-40,000
諸会費	63,000	120,000	-57,000
リース料	2,560,008	3,480,000	-919,992
租税公課	70,000	70,000	0
研修費	160,000	200,000	-40,000
支払手数料	115,008	600,000	-484,992
手数料	1,172,000	1,096,000	76,000
雑費	503,244	303,432	199,812
経常費用計	271,120,000	273,370,000	-2,250,000
当期経常増減額	4,018	25	3,993
当期一般正味財産増減額	4,018	25	3,993
一般正味財産期首残高	12,319,159	12,288,293	
一般正味財産期末残高	12,323,177	12,288,318	
II 指定正味財産増減の部			
一般正味財産への振替額	-271,120,000	-273,370,000	
当期指定正味財産増減額	-271,120,000	-273,370,000	2,250,000
指定正味財産期首残高	327,503,439	560,981,266	-233,477,827
指定正味財産期末残高	56,383,439	287,611,266	
III 正味財産期末残高	68,706,616	299,899,584	-231,192,968